

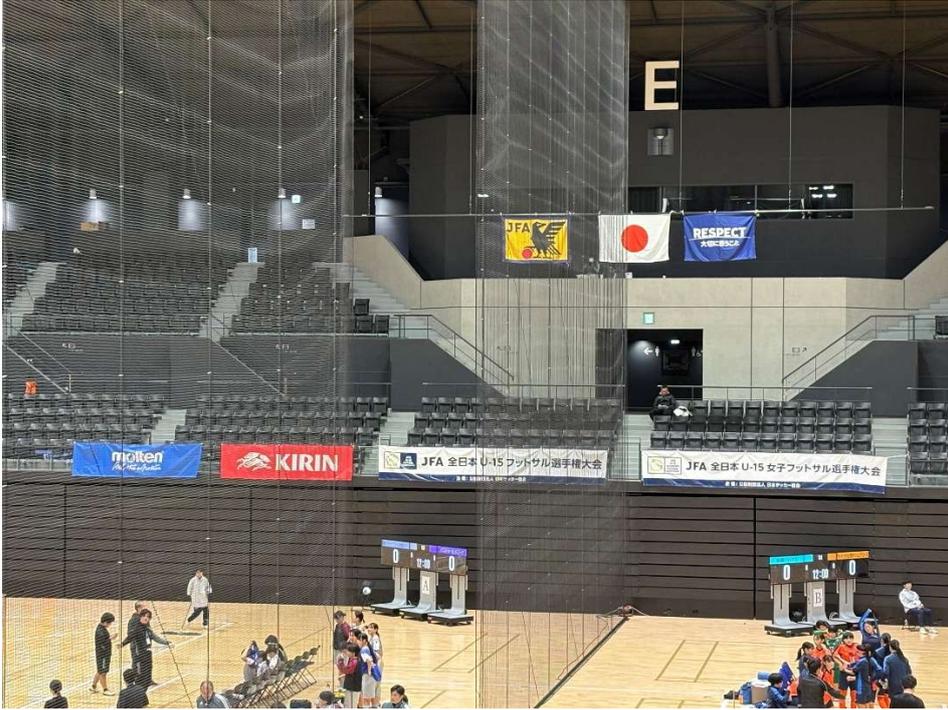
フットサル2級・女子2級審判員強化研修会参加レポート

岡山県 サッカー・フットサル2級審判員 大枝涼芽

大会名：JFA 第31回全日本U-15フットサル選手権（2026年1月10日～12日）

JFA 第16回全日本女子フットサル選手権大会（2026年1月11日～12日）

会場：日環アリーナ栃木（栃木県宇都宮市西川田4丁目14-1-1）



参加者：(9名) 北川恵太氏（北海道）、渡部永遠氏（東北）野口もも氏（関東）中西遥音氏（北信越）、富田昂誉氏（東海）、力石賢人氏（関西）、中谷敬吾氏（四国）、俵坂仁氏（九州）、大枝涼芽（中国）

インストラクター：(7名) 櫻田雅裕氏、新谷勝士氏、池田浩之氏、古田武志氏、松尾久美子氏、安永陽一氏、

他：JFA 審判マネージャー 延本泰一氏、JFA 派遣フットサル1級審判員4名、地域派遣12名

計33名

1. 研修会テーマ

- ・判断の質が上がるポジショニングを継続する
- ・情報を簡潔かつ速やかに伝え、協働で成果を出す

2. 事前研修会（講師；本研修会チーフ ins 櫻田雅裕氏）

- ・研修会のテーマについての共有

・試合に向けての準備（トレーニング、睡眠、食事、寒さ対策）

事前研修会では前回大会での映像を用いてチームワーク、第3審判の動き・サポート、予測を意識したポジショニング等を参加審判員9名で共有した。

3. 割当・振り返り

1/10 12:00KO 男子グループ C 三条ジュニアユース FC vs 名古屋オーシャンズ U15

R:北川恵太 2R:大枝涼芽 3R:佐山志功 TK:松田裕之 INS: 櫻田雅裕氏

良かった点: 00秒に近い時間でのキックオフができた(2Pも近い時間でできていた)

積極的に争点を見に行くポジショニングができていた。

改善点: 予測を1つ2つではなく3つ以上を思考すること。

FK マネジメントの混戦を呼んで注意(周りに分かるように!)

1/10 14:00KO 男子グループ A FC トゥリオールニ U15 vs 翼 SC レインボー垂井 U-15

R:中西遙音 2R:大枝涼芽 3R:赤嶺志穂 TK:永吉鉄矢 INS:古田武志氏

良かった点: ファウルが非常に少ないタフなゲームであった。(この試合では1本のみ)

改善点: 自身に迫ってくるボールが来た時のポジショニングは要改善

1/10 16:00KO 男子グループ C 名古屋オーシャンズ U15 vs 東急 S レイエス FC フットサル U-15

R:外館美穂 2R:峯川健太 3R:中西遙音 TK:大枝涼芽 INS: 池田浩之氏

良かった点: 人生初ながらきちっと操作できていた。

改善点: ラスト1秒戻したところは主審が終了したので戻さなくてよかったのではないか(ゲームが求めていたか)

1 日目を振り返って(2日目朝)

立ち姿とシグナルについての全体の振り返りがあった。立ち姿では吊るされているように立ち、シグナルは長さを3秒間示す意識する事等の振り返りが行われた。

1/11 10:00KO 女子グループ A ディオッサ出雲 FC ジュニアユース vs 十文字中学校

R:外館美穂 2R:富田昂誉 3R:大枝涼芽 TK:長谷川亮 INS 古田武志氏

良かった点: 基本的なポジショニングがとれていた。

改善点: GKのピブスを渡さずに交代していた。(要マネジメントであった)

1/11 13:00KO 女子グループ C 長岡ジョイアス vs パスドゥーロメニーナ

R:大枝涼芽 2R:渡邊潤 3R:外館美穂 TK:大塚康太 INS 池田浩之氏

良かった点: 朝の全体の振り返りであったシグナルを長くすること意識できていた。

キックイン時の飛び出しにも注意・マネジメントできていた

改善点：TKの時計がアウトオブプレー時に動いてしまっていたとき、主審も気かけられるとよかった。(レフェリーチームとして)

1/11 15:00KO 男子グループD 久留米アザレア U-15 vs アレアレア FC U-15

R:大枝涼芽 2R:赤嶺志穂 3R:矢口武志 TK:城戸祐一郎 INS:古田武志氏

良かった点：1点目のハンドで得点取り消し Good

改善点：キックインの基準の整合性がRと2Rとでの基準に差があるように見えた。

大会2日目を振り返って

2日目の映像を用いて全体で振り返った、得点取り消しのシーンでは伝え方や笛の使い方等誰が見ても明瞭なものは何かについて全体で振り返った。

1/12 11:00KO 男子準決勝2 東急Sレイエス FC フットサル U-15 vs 長岡JYFC

R:大枝涼芽 2R:力石賢人 3R:北畠和郁 TK:木村拓 INS 安永陽一氏

良かった点：シグナルの長さ・姿勢、立ち姿を意識できていた。

改善点：シグナルの長さを意識しすぎた故に、次のポジショニングが遅れていた。

ホールディングについて、先にやっていたのか、やられてやり返したのかの見極めができるようになれば尚良い。

4. 事後研修<1/21> (講師：本研修会チーフ INS 櫻田雅裕氏)

事前研修会から大会を通して全体の振り返り

・テーマについて振り返り、ここはよかった・1mでも近くによるべき事象であった・守備側選手を背後に通らせないポジショニングを取る・レフェリーチームとしてチームワーク発揮できていたか否か等を今大会での試合を振り返った。

5. 全体の振り返り

この度は中国を代表して全国大会に参加をさせていただきました。まだフットサル審判員としては1年目でしたが、非常に貴重な機会をいただきましてありがとうございました。

今回の研修テーマ「判断の質が上がるポジショニングを継続する」「情報を簡潔かつ速やかに伝え、協働で成果を出す」というところを重点的に学び、実践をしました。

2日目は追加で立ち姿とシグナルについても追加があり、この大会3日で自身も成長できたことを実感することができました。ポジショニングについてはまだまだ奥が深く、答えもないので実践と振り返りの繰り返しを続けて研鑽していかなければならないと感じました。今回大会の参加審判員の年齢層は幅広く、最年少は18歳、最年長は34歳と広がったが、非常に良い交流ができたと感じました。

この経験をいかし、中国地域でも活躍できるように活動をしていき、さらなる成長を目指して頑張っていきたいと思います。



写真は JFA 公式 X より参照